

作品展に向けて

対象児:3歳児ゆり組

作成日:2025年1月17日

作成者:八木京香

ねらい:いろいろな素材に触れながら製作することを楽しむ。



振り返り:3学期が始まり、園生活の流れを取り戻しながら自分のことは自分でやってみようとするゆり組の子どもたちの姿が見られています。見守りながら応援したり、時には一緒に手伝いながら出来たことへの喜びを感じながら過ごしていくことを大切にしています。

作品展に向けての個人製作や共同製作を子ども達と一緒に楽しみながら進めている所です。動物園をテーマに個人製作では『さる』と『ぶた』の2つのチームに分かれて活動を進めています。子ども達のイメージが広がるようにいろいろな素材を用意し、一人ひとりがこうしたいという思いがあると思うので、聞きながらイメージに寄り添うことが出来るように関わりながら製作をしています。最近では、はさみに興味を持っている姿が見られているので、少し危ないかなという思いもありましたが、持たせてみることにしました。1学期、2学期に保育者が声を掛けたり、一緒に手を添えて切っていくことで少しずつ身についてきており、ゆっくりとはさみを動かしながら切っていく姿が見られています。一人ひとりの切れた大きさが違っていたり、好きな色を使って描いていくことで、個性を引き出せているように感じています。また自分の担当する動物に愛着を持っていて、大切に製作をしている姿が見られました。共同製作では大きなぞうを年少児と年長児で製作しました。ぞうは、いろいろな色の布を貼り合わせていきました。年少児はボンドで塗った所を貼ることを楽しんでいました。年長児になると「ここに貼ると同じ色になるから違う所に貼った方がいいね」「段ボールが見えるから重ねて貼ってみようか」と全体のバランスを見ながら貼っていく姿が印象的でした。学年が上がると共にいろいろな気付きがあり、子ども達の視点でみんなで話し合いながら一つの作品が出来上がっていくことは素敵なことであると感じることが出来ました。(協同性、道徳性・規範意識の芽生え、社会生活との関わり、思考力の芽生え、数量・図形・文字等への関心・感覚、言葉による伝え合い、豊かな感性と表現)